オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(127)(HP 収載)
—2006 年のヨーロッパ・コンサート—

１．始めに

前報(126)に引き続き、STAGE+の 2006 年のヨーロッパ・コンサートの試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、2006 年のヨーロッパ・コンサートの演奏を選びました。

2006 年のヨーロッパ・コンサートは再び始まりの地プラハから

収録日: 2006 年 5 月 1 日

2006 年の「ベルリン・フィルのヨーロッパ・コンサート」は同企画の発祥の地であるプラハでの 2 度目の開催となりました。会場であるエステート劇場は 1787 年にモーツァルトが自ら《ドン・ジョヴァンニ》の初演を指揮したことで知られる記念すべき場所。今回もモーツァルト生誕 250 年のアニバーサリーであることから（歿後 200 年だった 1991 年の第 1 回と同じく）オール・モーツァルト・プログラムとなっています。指揮を務めるバレンボイムはピアニストとしての出演も加えると、これが当コンサート 5 度目となるバレンボイム。今回もピアノ協奏曲での鮮烈な弾き振りは必見です。加えて当時、楽団の首席を務めていたバボラークが吹くホルン協奏曲の驚異的な名人芸にも目と耳を奪われます。

ソリスト:

Radek Baborak (ホルン)、ダニエル・バレンボイム（ピアノ）

演奏:

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

交響曲第 35 番ニ長調 K. 385《ハフナー》

ピアノ協奏曲第 22 番変ホ長調 K. 482

ホルン協奏曲第 1 番ニ長調 K. 412

　　Radek Baborak(ホルン)

交響曲第 36 番ハ長調 K.425《リンツ》

３．試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PC の 2 本の LAN ケーブルに LAN アキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

2006 年のプラハでのヨーロッパ・コンサートでオール・モーツァルト・プログラムです。収録のエステート劇場はモーツアルトゆかりの劇場でもあり、豪華で歴史のある雰囲気です。曲目は、お馴染みの曲ばかりでピアノ協奏曲第 22 番は、バレンボイムの弾き振りです。

いずれの演奏も、最新の収録ほどではありませんが、鮮明な音で、バレンボイムのピアノはクリアーですし、Baborak のホルンも朗々と響き、演奏技量の確かさも分かります。

ベルリンフィルディジタルコンサートホールのアーカイブもありましたので、聴き比べてみましたが、音の滑らかさで、この STAGE+の配信が本家のディジタルコンサートホールを寄せ付けません。

４．まとめ

LAN アキュライザーと Crstal EpL の効果により、最新の収録には及びませんが、由緒ある劇場でも演奏の雰囲気は伝わってきます。ベルリンフィルディジタルコンサートホールのアーカイブもありましたので、聴き比べてみましたが、STAGE+の配信方の音質がディジタルコンサートホールのアーカイブを上回っています。

以上